

# 共通カリキュラム・プロジェクト会議 の検討状況



平岡和久(立命館大学)

# 共通カリキュラム・プロジェクトの目的

○飯田に関わってきた各大学・教員が持っている飯田の価値を集約し、共有化する

○それをもとにしたモデルカリキュラム案を作成することにより、飯田を起点とした複数大学による新たな連携モデルを構築する

# 検討経過

○H23年10月4日

第一回プロジェクト会議

趣旨説明、意見交換

○H23年12月11日・12日

第二回プロジェクト会議

日本福祉大学・大濱裕教授による事例紹介

各教員からのシラバス案(2単位科目)の説明

共通カリキュラムのたたき台

# 共通カリキュラムの基本的考え方(案)

## ○目的・主体

市民・行政・大学が協働して飯田の価値を知り、発信する。新しい地域像をつくっていく。

## ○対象

市民・学生・教員が一緒に学び、議論する

## ○テーマ、視点

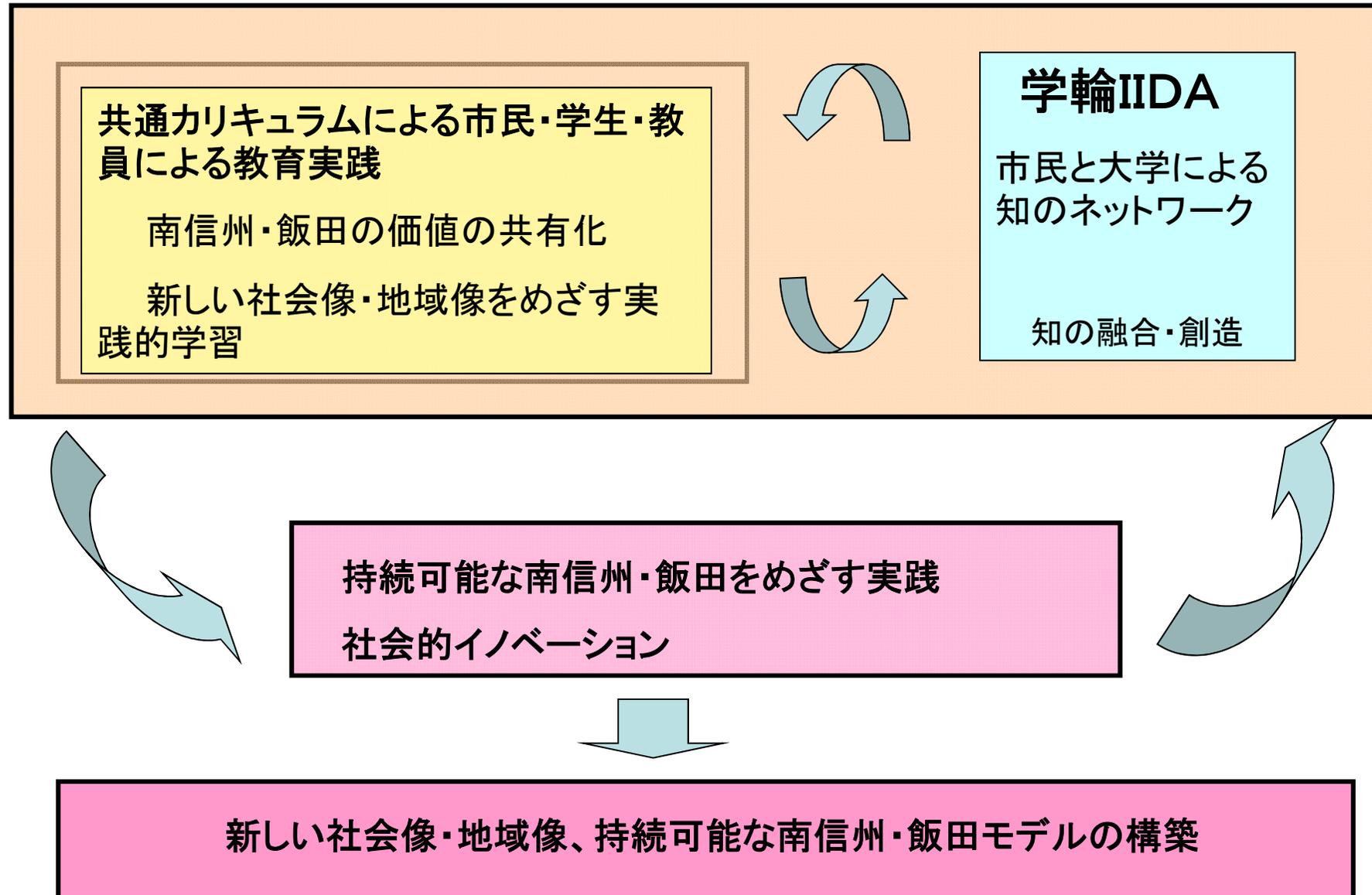
持続可能性 地域の視点

## ○方法

座学とフィールドワーク、あるいはそれらを組み合わせる。飯田での授業を中心に組み立てる。

→ 共通カリキュラムを実施する際の拠点が必要

# 共通カリキュラムの基本的考え方のイメージ



# 南信州・飯田フィールドスタディの経験

## ○飯田フィールドスタディ参加者

平成22年度は、21大学・299人 の学生等が参加

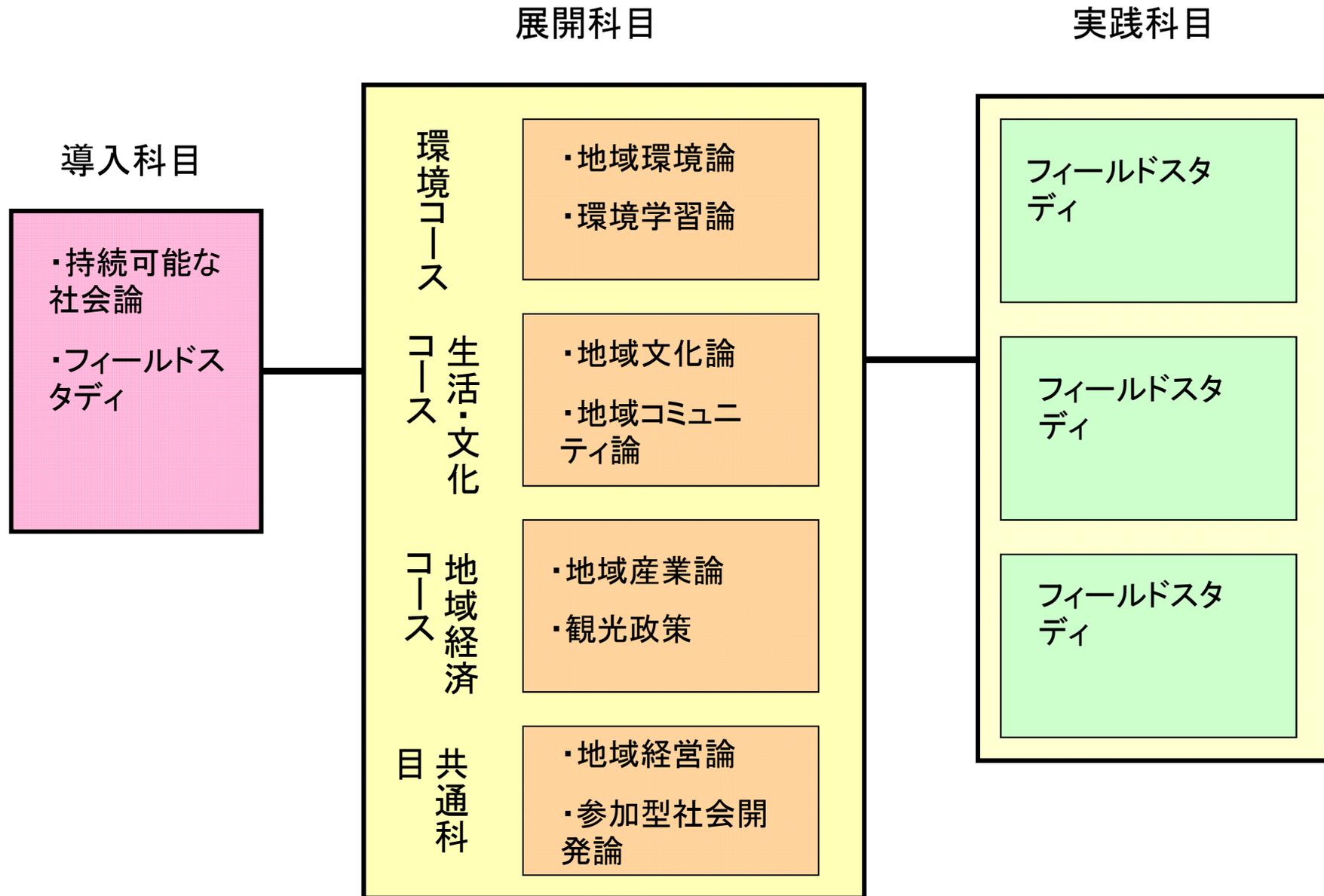
平成23年度は、16大学・422人 の学生等が参加

## ○単位認定の実例

・立命館アジア太平洋大学 など



# 共通カリキュラムのイメージ例



# 共通カリキュラム実現への課題

- 飯田工業高校の後利用による施設整備、および文科省の教育関係共同利用拠点の認定
- 各大学が正式に参加する(正規の科目に位置づけ)には、市と大学との協定や大学間の単位互換等の協定などが必要

# 来年度の検討課題

- より具体的な共通カリキュラム案づくり
  - 共通する導入科目
  - コース制の展開科目
  - フィールドワークなどの実践科目、など
- 夏のフィールドスタディを活用し、モデル授業の実証実験
  - 市民の方々と一緒にカリキュラムづくりの実践
- 共通カリキュラム実現への課題の検討